



畑作・野菜・花き生産情報 第4号

令和3年7月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎大豆ほ場の排水対策を徹底しよう！
- ◎ながいもは、新しいもの長さを確認して適期に追肥しよう！
- ◎換気や遮光をこまめに行うなど、ハウス内の適正な温湿度管理に努めよう！
- ◎切り花の品質保持のため、涼しい時間帯に収穫しよう！
- ◎曇天が続く場合は、病害の発生に注意し、予防防除に努めよう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

ア 生育は、草丈が津軽地域でかなり短く、県南地域で大幅に長くなるなど、地域によってバラツキが見られる。

イ 食葉性害虫の被害や立枯性病害が散見される。

表-1 大豆の生育状況 (7月10日現在)

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	5/26	6/5	36.2	18.9	6.0	2.6
	(<small>平年差・比</small>)	(1日遅)	(±0日)	(92%)	(90%)	(+0.1)	(+1.2)
	平年	5/25	6/5	39.4	21.0	5.9	1.4
	前年	5/26	6/3	44.3	24.6	7.2	2.8
野菜研究所 (六戸町)	本年	5/14	5/22	60.5	33.3	8.5	1.9
	(<small>平年差・比</small>)	(1日早)	(3日早)	(123%)	(124%)	(+1.3)	(+0.3)
	平年	5/15	5/25	49.2	26.8	7.2	1.6
	前年	5/15	5/28	57.0	32.5	7.5	0.6
藤崎町 (西中野目)	本年	6/3	6/11	32.8	-	5.1	-
	(<small>平年差・比</small>)	(±0日)	(2日早)	(94%)	-	(-0.1)	-
	平年	6/3	6/13	34.9	-	5.2	-
	前年	5/30	6/7	52.8	-	6.6	-
五所川原市 (金木町嘉瀬)	本年	6/10	6/20	24.3	-	3.9	-
	(<small>平年差・比</small>)	(5日遅)	(7日遅)	(84%)	-	(±0.0)	-
	平年	6/5	6/13	28.8	-	3.9	-
	前年	6/6	6/13	29.0	-	4.1	-
十和田市 (切田)	本年	6/4	6/10	46.7	-	6.9	-
	(<small>平年差・比</small>)	(2日早)	(5日早)	(164%)	-	(+3.1)	-
	平年	6/6	6/15	28.5	-	3.8	-
	前年	6/6	6/11	35.1	-	3.4	-

注) ①品種は「おおすず」

②平年値は、農林総合研究所、野菜研究所とも過去14か年、藤崎町が過去10か年、五所川原市が過去10か年(草丈・葉数は過去8か年)、十和田市が過去20か年の平均値

③調査日：本年は7月9日

(2) 今後の管理

ア 排水対策

大雨などで滞水しないよう、明きょを手直しして排水溝へ接続するなど排水対策

を徹底する。

イ 中耕・培土

コンバイン収穫時の土砂による汚粒発生を防止するため培土高は一定に保ち、本葉5～6葉期に第1本葉のつけ根まで土寄せする。生育が遅れているほ場では、土寄せを浅くする。

ウ 病害虫防除

べと病、アブラムシ類及び食葉性害虫などの病害虫は、発生状況を確認しながら適期防除に努める。

エ 追肥

登熟期間の気温が高く、追肥の効果が期待できる津軽地域では、窒素成分で10a当たり5～8kgの開花期追肥を行う。ただし、茎葉が過繁茂で倒伏のおそれがある場合は行わない。

野菜

(根菜類)

1 ながいも

(1) 生育状況

ア 萌芽揃期が平年より早く、生育は順調である。

イ 病害虫は、葉渋病、ナガイモコガ、アブラムシ類及びネキリムシ類の発生が見られる。

表-2 ながいもの生育状況 (7月10日現在)

場 所	年 次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つるの ネット頂 到達日 (月日)	7月10日				
					つる長 (cm)	茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本 年 (平年差・比)	5/25 (±0日)	6/18 (6日早)	— (—)	180.6 (120%)	41.2 (135%)	12.7 (121%)	5.5 (134%)	7.7 (117%)
	平 年	5/25	6/24	7/20	150.4	30.6	10.5	4.1	6.6
	前 年	5/25	6/25	7/23	140.5	31.4	11.8	4.9	7.2
五戸町 (上市川)	本 年 (平年差・比)	5/3 (9日早)	6/10 (5日早)	7/7 (1日早)	—	—	18.8 (111%)	8.2 (95%)	8.0 (97%)
	平 年	5/12	6/15	7/8	—	—	16.9	8.6	8.3
	前 年	5/5	6/11	7/10	—	—	19.2	10.9	7.6
東北町 (野田頭)	本 年 (平年差・比)	5/12 (2日早)	6/2 (5日早)	7/4 (8日早)	—	—	11.7 (94%)	5.7 (121%)	9.0 (129%)
	平 年	5/14	6/7	7/12	—	—	12.4	4.7	7.0
	前 年	5/14	6/10	7/10	—	—	16.2	7.3	7.3

注) ①平年：野菜研は平成30～令和2年の3か年の平均値

五戸町は平成14～令和2年の19か年の平均値

東北町は平成20～令和2年の13か年の平均値

②種子：野菜研は園試系6の1年子(90～110g)ガンク切除

(ガンク切除時期は植付30日前、前年までは植付15日目の頂芽切除)

五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除

東北町は庄司系の1年子(80～120g)頂芽付

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)

五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)

東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)

④調査日：本年は7月9日

(2) 今後の管理

ア 追肥

(ア) 追肥は遅れると収量や品質低下の原因となるので、適期に行う。

(イ) 追肥を開始する目安は、つる長と新しいも長を確認して判断し、特に切いもは、つるの伸長が1年子や2年子より遅れ気味となるので、必ず新しいも長を確認する。

① 早植栽培（頂芽付1年子、4月下旬～5月上旬植付け）

- ・第2回目以降の追肥は、第1回目の追肥から12～14日おきを目安に行う。
- ・追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも成分量で10a当たり5kgを基準とする。

② 普通栽培（頂芽切除、5月下旬～6月上旬植付け）

- ・第1回目の追肥時期は、子いもでは植付後45～55日頃、切いもでは植付後55～65日頃、つる長が200～220cmで主づるの先端がネットの8分目から頂部に達し、新しいも長が10～15cmとなった頃を目安とする。
- ・第2回目、第3回目の追肥は、第1回目から10日おきを目安に行う。
- ・追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも成分量で10a当たり5kgを基準とし、生育が旺盛な場合には追肥量を減らす。

表－3 追肥方法

作 型 (植付時期)		早植栽培 (4月下旬～5月上旬)	普通栽培 (5月下旬～6月上旬)	
種いも		頂芽付・1年子	頂芽切除・子いも	切いも
追肥 開始 の 目安	植付後日数	60日前後	45～55日頃	55～65日頃
	新しいも長	5cm前後	10～15cm	
	つる長	150cm前後 (ネットの5分目程度)	200～220cm (ネットの8分目～頂上部)	
追肥間隔等		12～14日おきを目安に3回 1回目：6/下～7/上 2回目：7/中～7/下 3回目：7/下～8/上	10日おきを目安に3回 1回目：7/中～7/下 2回目：7/下～8/上 3回目：8/上～8/中	
		遅くとも8月20日には終了する。		
追肥量		1回当たり窒素成分で5kg/10a以内とする。		

イ 病害虫防除

(ア) 葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

(イ) 採種ほ場ではウイルス病の伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

ウ 風水害対策

(ア) 台風など強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

(イ) 植溝が穴落ちした場合は、速やかに埋め戻す。

2 ばれいしょ

(1) 生育状況

ア いも数は平年をかなり下回っているものの、草丈、いも重が平年を大幅に上回っており、生育は順調である。

イ 病害虫は、疫病、アブラムシ類の発生が見られる。

表－４ ばれいしょの生育状況（7月10日現在）

場 所	年 次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	7月10日		
						草丈 (cm)	いも数 (個/a)	いも重 (kg/a)
三 沢 市 (三沢庭構)	本 年 (平年差・比)	3/27 (10日早)	5/4 (2日早)	5/25 (3日早)	6/6 (4日早)	95.2 (117%)	3,571 (94%)	401 (117%)
	平 年	4/6	5/6	5/28	6/10	81.5	3,785	344
	前 年	3/27	5/9	5/29	6/11	69.3	5,193	309

注) ①平年：平成23～令和2年の10か年の平均値
 ②品種：メークイン
 ③作型：マルチ栽培
 ④調査日：本年は7月9日

(2) 今後の管理

ア 病害防除

曇雨天が続くと、疫病が急激に増加するため、収穫まで期間がある場合は、7～10日おきに降雨の合間をぬって予防防除を行う。

イ 収 穫

(ア) 収穫は、茎葉が黄変し、枯れ上がってから10日後位に行う。

(イ) 掘り取ったいもは、速やかに風通しの良い冷暗所に収納し、厚く積まないで広げておく。

(ウ) 早掘栽培では、収穫の5～7日前に茎葉を刈り取るか抜き取り、いもの表皮をコルク化させてから収穫する。

3 ご ぼ う

(1) 生育状況

ア 草丈は平年をかなり下回っているものの、葉数は平年をかなり上回っており、生育は順調である。

イ 病虫害は、アブラムシ類、コガネムシ類、ハムシ類の発生が見られる。

表－５ ごぼうの生育状況（7月10日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	7月10日	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三 沢 市 (三沢猫又)	本 年 (平年差・比)	5/1 (1日遅)	59.2 (90%)	4.1 (108%)
	平 年	4/30	65.8	3.8
	前 年	4/24	95.8	3.3

注) ①平年：平成23～令和2年の10か年の平均値
 ②品種：柳川理想
 ③調査日：本年は7月9日

(2) 今後の管理

ア 病虫害防除

黒斑細菌病、黒条病、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

イ 追肥

追肥を予定している場合は、生育を見ながら適切に行う。

4 夏だいこん

(1) 生育状況

は種作業は順調に進み、出芽も良好である。

(2) 今後の管理

ア 病虫害防除

軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底するとともに、コナガ、アオムシなどの害虫の早期発見・早期防除に努める。

イ 排水対策

台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなど、排水対策を徹底する。

(果菜類)

5 夏秋トマト（雨よけ栽培）

(1) 生育状況

ア 定植後の生育は順調で、収穫始めは平年並～平年より早まっている。

イ 葉先枯れやガク枯れのほか、花落ち、窓あき果、軟果、尻腐れ果が見られている。

ウ 病虫害は、灰色かび病の発生が見られる。

表－6 トマトの生育状況（7月10日現在）

場 所	年 次	定植期 (月日)	1 段果房		3 段果房		5 段果房		7 段果房		収穫期 始め (月日)
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	
五所川原市 (金木町嘉瀬)	本 年	4/28	5/6	3.9	5/27	3.4	6/12	2.6	6/28	—	6/19
	(平年差・比)	(4日早)	(±0日)	(115%)	(1日遅)	(110%)	(2日早)	(104%)	(3日早)	(—)	(5日早)
	平 年	5/2	5/6	3.4	5/26	3.1	6/14	2.5	7/1	2.9	6/24
	前 年	5/2	5/8	3.4	5/29	2.9	6/13	2.7	7/2	2.9	6/26
三戸町 (斗内)	本 年	5/11	5/28	4.2	6/14	3.6	6/29	—	—	—	7/10
	(平年差・比)	(4日早)	(1日遅)	(117%)	(3日早)	(109%)	(5日早)	(—)	(—)	(—)	(±0日)
	平 年	5/15	5/27	3.6	6/17	3.3	7/4	2.5	7/22	2.2	7/10
	前 年	5/11	6/2	4.8	6/18	3.7	7/8	1.3	7/29	1.9	7/16

注) ①平年：五所川原市は本年度から設置場所・担当農家を変更したため、平年(H29～R2)、前年は参考値
三戸町は平成20～令和2年の13か年の平均値

②品種：五所川原市は桃太郎セレクト（台木：キングバリア）、三戸町はりんか409（自根）

(2) 今後の管理

ア 追肥・かん水

(ア) 追肥及びかん水は、水分要求量が高まる午前8～9時頃に行う。

(イ) 液肥の場合、1回当たりの追肥量は、窒素成分で10a当たり0.5kgを目安とし、1～3日おきぐらいに行う。曇雨天が続く場合は、肥効が早い硝酸態窒素の多く入った肥料を使用する。

(ウ) かん水量は、1株当たり1.5リットルを基準に、天候を見ながら毎日～3日おきで行うが、予想最高気温が28℃以上の日は、水分要求量が高いので1株当たり2.0リットルとする。

(エ) 支柱誘引やUターン誘引で無摘葉とする場合は、生育が進むにつれて葉の繁茂量が多くなるので、かん水と追肥をそれぞれ慣行より1～2割程度増やす。

(オ) 高温が続くと、着果不良が発生したり、裂果しやすい果実ができるので、通路にかん水する。

ただし、土壌の乾燥が著しい場合に、大量に通路かん水すると軟果が発生するので、最初は深さ1～2 cmまで湿る程度にかん水し、2～3日経過してから深さ約5 cmまで湿る程度にかん水する。

イ 温度管理

(ア) ハウス内の高温に注意し、サイドの開放と併せて、肩換気やツマ面換気も行う。

(イ) 生長点のしおれが見られる場合は、日中の暑い時間帯に遮光、遮熱資材でハウスを覆う。

(ウ) 通路及び畦の肩まで白黒マルチを設置し、地温の上昇を抑制する。

ウ 病害虫防除

(ア) ハウス内の湿度が高かったり、草勢が低下すると、灰色かび病、葉かび病が蔓延しやすくなるので、計画的に防除するとともに、次の対策を行う。

①換気を行う。

②通路にマルチを敷く。

③株元の通風を良くするため、収穫が終了した果房の下葉を摘葉する。

④摘果、誘引、追肥などの作業を適期に行い、草勢維持に努める。

(イ) 農薬による防除は、薬剤耐性菌が出現しないよう、作用性の異なる薬剤を組み合わせるローテーション散布を行う。

(ウ) 今後、アザミウマ類、タバコガ類の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

6 メロン

(1) 生育状況

ア トンネル栽培（4月下旬～5月上旬定植）の生育は順調である。

イ 病害虫は、べと病、斑点細菌病、うどんこ病、アブラムシ類の発生が見られる。

表ー7 メロンの生育状況（7月10日現在）

場 所	年 次	定植期 (月日)	7月10日		着果期 (月日)	収穫期 (月日)
			主づる長 (cm)	主づる葉数 (枚)		
つがる市 (木造)	本 年 (<small>平年差・比</small>)	5/1 (4日早)	249.7 (118%)	28.5 (113%)	6/11 (4日早)	— (—)
	平 年	5/5	210.9	25.3	6/15	7/29
	前 年	5/8	220.4	26.1	6/14	7/26

注) ①平年：平成26～令和2年の7か年の平均値

②品種：タカミ（台木：ダブルガードパワー）

③調査日：本年は7月9日

(2) 今後の管理

ア 萎れ対策

遮光資材を活用し、高温による萎れや果実の日焼けを防ぐ。

イ 適期収穫

(ア) 収穫は、着果後の日数や外観のほか、試し切りを行い、糖度・肉質の状況を確認して総合的に判断し、果温が低い朝夕に行う。

(イ) 収穫が遅れると発酵果や裂果が発生し、貯蔵性の低下につながるので十分注意する。

ウ 病害防除

(ア) ベと病、黒斑細菌病、アブラムシ類などの発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

(イ) やむを得ず連作した畑では、雨天が続くとつる枯病が発生しやすいので、防除を徹底する。

(葉茎菜類)

7 ねぎ

(1) 生育状況

ア 3月下旬定植、4月中旬定植ともに生育は順調である。

イ 病害虫は、ベと病、さび病、斑点性病害、アザミウマ類、ハモグリバエ類の発生が見られる。

表-8 ねぎの生育状況(7月10日現在)

場 所	年 次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	7月10日		収穫期 (月日)
				草丈 (cm)	茎径 (mm)	
八戸市 (是川)	本 年	11/28	3/20	96.9	23.6	—
	(<small>平年差・比</small>)	(44日早)	(6日早)	(98%)	(115%)	(—)
	平 年	1/11	3/26	99.0	20.6	7/22
	前 年	12/26	3/21	96.6	18.3	7/20
十和田市 (洞内)	本 年	2/3	4/12	96.6	22.0	—
	(<small>平年差・比</small>)	(13日早)	(17日早)	(129%)	(134%)	(—)
	平 年	2/16	4/29	74.9	16.4	9/20
	前 年	2/5	4/28	88.3	22.5	8/27

注) ①平年：八戸市は平成15～令和2年の18か年の平均値
十和田市は平成17～令和2年の16か年の平均値

②品種：夏扇パワー

③調査日：本年は7月9日

(2) 今後の管理

ア 病害虫防除

ベと病、黒斑病等の発生に注意し、早期発見に努め、各病害虫に効果的な薬剤を選択し、防除を徹底する。

イ 培土・追肥

(ア) 生育の進み具合に応じた培土や追肥を行う。

(イ) 最終培土は、太さ20～22mm、収穫20～30日前を目安に行う。

花 き

1 夏秋ギク

(1) 生育状況

ア 生育はおおむね順調である。

イ 病害は白さび病、害虫はアブラムシ類が散見される。

表－9 夏秋ギクの生育状況（7月10日現在）

場 所	年 次	品 種 名	定植期	草丈 (cm)	葉数 (枚)	備 考
新 郷 村	本 年	精の一世	4月22日	114.2	60.5	1本仕立て
	平 年	精の一世	4月18日	106.1	53.2	1本仕立て
	前 年	精の一世	4月27日	103.0	53.2	1本仕立て
五所川原市	本 年	岩の白扇	4月14日	117.1	38.5	2本仕立て
	平 年	岩の白扇	4月13日	109.1	43.0	2本仕立て
	前 年	岩の白扇	4月15日	102.8	39.6	2本仕立て

注) ①平年：新郷村は平成26年～令和2年の7か年の平均値

五所川原市は平成30年～令和2年の3か年の平均値

②新郷村の生育観測ほは本年と前年、前々年以前でそれぞれ異なる農家ほ場に設置

(2) 今後の作業

ア 病虫害防除

白さび病は、発らい期から発生しやすくなるので、換気をこまめに行うなど予防に努める。

高温乾燥条件により害虫の発生が増えるので、早期発見・早期防除に努める。

イ 収穫

2～3分咲きを目安に採花するが、出荷先により異なるため事前に確認する。

涼しい時間帯に行い、切り口を乾かさないようにする。早朝に採花する場合は、朝露に濡れたまま収穫すると荷痛みの原因となるので乾いてから行う。

2 秋ギク

(1) 生育状況

ア 定植後の生育は順調である。

イ 病虫害の発生は見られない。

(2) 今後の作業

ア 定植後の管理

ハウス内が高湿・過湿にならないように換気するほか、循環扇、寒冷しゃ等を活用し、適正な温湿度管理に努める。

活着まではほ場を過度に乾かさないようにこまめにかん水する。

活着後から発らい前までは、ほ場の乾燥状況を見ながら十分にかん水する。

イ 病虫害防除

夏秋ギクに準ずる。

3 トルコギキョウ

(1) 生育状況

ア 生育はおおむね順調である。

イ 病虫害の発生はほとんど見られない。

表-10 トルコギキョウの生育状況（7月10日現在）

場 所	年 次	品 種 名	定植期	草丈 (cm)	節数 (節)
青 森 市	本 年	北斗星	4月10日	48.1	12.6
	前 年	北斗星	4月7日	48.2	14.0
田舎館村	本 年	ボヤージュライトピンク	4月19日	49.2	14.9
	前 年	ボヤージュピンク	4月22日	41.6	15.1

注) 平年：青森市は一昨年から品種が変更されたため、平年値なし
田舎館村は本年から品種が変更されたため、平年値なし

(2) 今後の作業

ア かん水

発らいまでは乾燥させないように適宜かん水し、発らい後はしおれない程度にかん水を減らし軟弱徒長を防ぐ。

イ 温度管理

ハウス内が高温・過湿にならないように換気するほか、循環扇、寒冷しゃ等を活用し、適正な温湿度管理に努める。

ウ 側枝等の整理

不要な側枝は早めに摘み取る。また、1番花も早めに除去し、上位節から発生する分枝の伸長を促す。

エ 病虫害防除等

アザミウマ類やヤガ類の発生が多くなる時期なので、早期発見・早期防除に努める。

オ チップバーン対策

チップバーンの発生しやすい品種では、カルシウム剤を葉面散布する。

カ 収穫

涼しい時間帯に収穫し、速やかに鮮度保持剤による前処理を行う。

畑作・野菜・花き生産情報第5号は令和3年8月20日発行の予定です。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

- 1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめにとる！
- 2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中！ ～元気な作物は健康な土が育みます～
土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります！
緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！
効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎令和3年度青森県農薬危害防止運動展開中（5月1日～8月31日）

農薬を使用する前には必ず最新の農薬登録内容を確認し、使用基準を守って使用しましょう。また、散布の際は周囲に飛散させないよう細心の注意を払いましょう。

クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、住宅、畜舎等に近接する農地での使用は避け、薬剤の施用後は速やかにシート（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆しましょう。

市販されている除草剤のうち、「非農耕地専用除草剤」は、農作物等の栽培管理に使用できないので、注意しましょう。

農林水産省【農薬登録情報提供システム】

<https://pesticide.maff.go.jp/>

(独)農林水産消費安全技術センター【農薬登録情報・速報】

https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
- 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。
- 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月空けましょう。
- 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→ (<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasainoeiseikannrishishinnokouhyounitomonaukachikuhunntaiino seisannkanrinochuuitenn.html>)



◎農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！

農業保険には、農作物共済、園芸施設共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。（青色申告の実施が要件）

<野菜のみ> -----

令和3年から、「農業経営収入保険」に加入した1年目に限り、「野菜価格安定制度」との同時加入が認められました。現在、価格安定制度に加入しており、収入保険に興味のある方は、ぜひ御検討ください。

また、収入保険の加入申し込みは随時受け付けていますが、今年から、農林水産省の共通申請サービスを利用することにより、自宅のパソコンなどからオンラインで申請できるようになりました。事務費の割引もありますので、これを機に加入をご検討ください。

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

連絡先	農産園芸課
	稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>